

グローバル・アロケーション・オープンDコース (年4回決算・限定為替ヘッジ)

追加型投信／内外／資産複合

受益者の皆さまへ

毎々格別のお引き立てに預かり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、世界各国の株式や債券などさまざまな資産への分散投資で得られる収益の獲得を目指します。外貨建資産については、原則として米ドル売り／円買いの為替取引を行います。

当作成対象期間につきましても、これに沿った運用を行いました。ここに、運用経過等をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

作成対象期間 2019年3月16日～2019年9月17日

第23期	決算日：2019年6月17日	
第24期	決算日：2019年9月17日	
第24期末 (2019年9月17日)	基準価額	9,727円
	純資産総額	2,673百万円
第23期～ 第24期	騰落率	2.2%
	分配金合計	0円

(注1) 騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率を表示しています。

(注2) △(白三角)はマイナスを意味しています(以下同じ)。

当ファンドは投資信託約款において、運用報告書(全体版)を電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記のホームページにアクセスし、「基準価額一覧」等から当ファンドの名称を選択いただき、ファンドの詳細ページから閲覧、ダウンロードすることができます。また、運用報告書(全体版)は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

■運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター **0120-104-694**

(受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで)

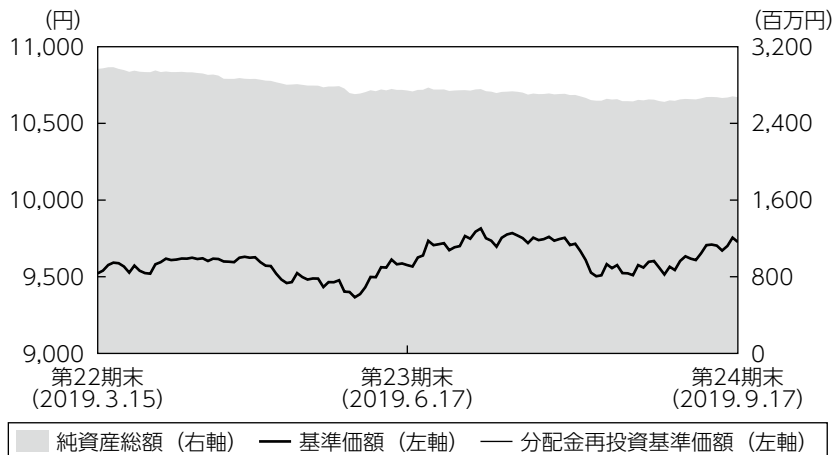
お客さまのお取引内容につきましては、購入された販売会社にお問い合わせください。

アセットマネジメントOne 株式会社

東京都千代田区丸の内1-8-2 <http://www.am-one.co.jp/>

運用経過の説明

基準価額等の推移



第23期首： 9,522円
 第24期末： 9,727円
 (既払分配金0円)
 騰落率： 2.2%
 (分配金再投資ベース)

- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまが利用するコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、期首の基準価額に合わせて指数化しています。
- (注4) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示してあります。
- (注5) 当ファンドはベンチマークを定めておりません。

基準価額の変動要因

ルクセンブルグ籍の外国籍投資法人「ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンドークラスX」（以下、「アロケーション・ファンド」といいます。）米ドル建投資証券と国内投資信託「国内マネー・マザーファンド」受益証券を対象とするファンド・オブ・ファンズの形式で運用を行います。投資信託証券への投資を通じて、世界各国のさまざまな資産への分散投資で得られる収益の獲得による投資信託財産の成長を目指して運用を行います。外貨建資産については、原則として当ファンドにおいて米ドル売り／円買いの為替ヘッジを行います。

第23期首9,522円でスタートした基準価額は、2019年6月3日に9,366円の作成期中安値を付けました。その後、上昇に転じ2019年7月5日に作成期中高値の9,815円を付け、9,727円で第24期末を迎えました。

当作成期間においては、アロケーション・ファンドが分配金込みで4.8%上昇する一方、為替ヘッジコストや信託報酬等を負担した結果、基準価額は2.2%上昇しました。

1 万口当たりの費用明細

項目	第23期～第24期		項目の概要
	(2019年3月16日 ～2019年9月17日)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	99円	1.032%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は9,591円です。 投信会社分は、信託財産の運用、運用報告書等各種書類の作成、基準価額の算出等の対価 販売会社分は、購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価 受託会社分は、運用財産の保管・管理、投信会社からの運用指図の実行等の対価
(投信会社)	(61)	(0.631)	
(販売会社)	(37)	(0.384)	
(受託会社)	(2)	(0.016)	
(b) その他費用	0	0.003	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、外国での資産の保管等に要する費用 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用 その他は、信託事務の処理に要する諸費用
(保管費用)	(0)	(0.001)	
(監査費用)	(0)	(0.002)	
(その他)	(0)	(0.000)	
合計	99	1.035	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。項目ごとに小数点以下第4位を四捨五入してあります。

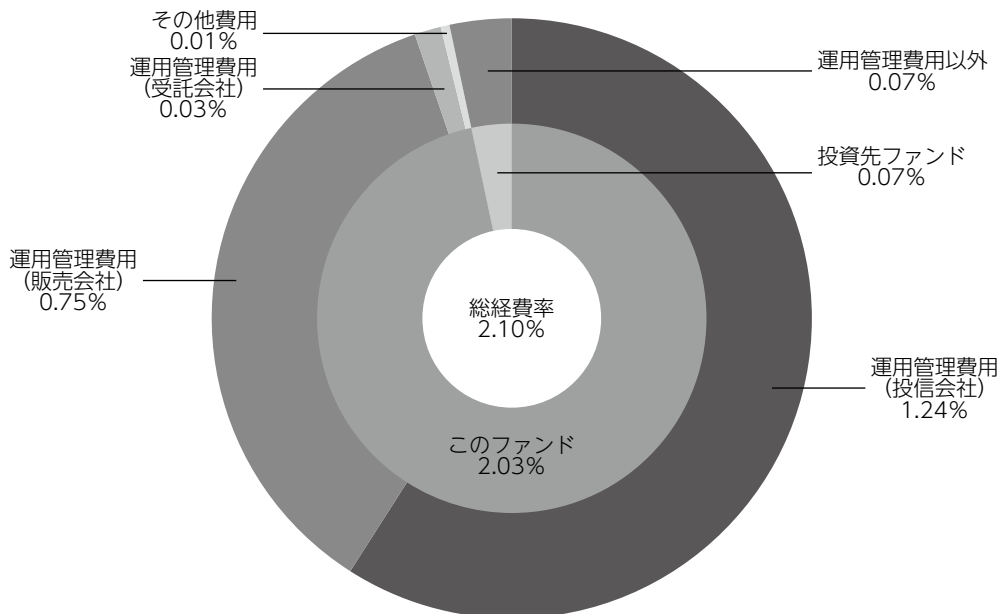
(注4) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く）が支払った費用を含みません。

(注5) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては組入ファンドの概要に表示することとしております。

（参考情報）

◆総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.10%です。



総経費率（①+②+③）	2.10%
①このファンドの費用の比率	2.03%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	—
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.07%

（注1）①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

（注2）各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

（注3）各比率は、年率換算した値です。

（注4）投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

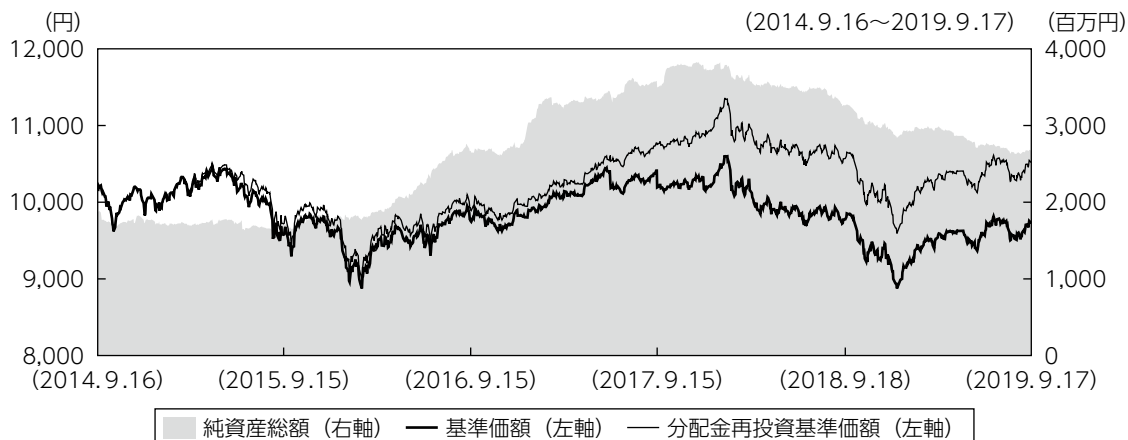
（注5）①の費用は、マザーファンドが支払った費用および「ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンドークラスX」（以下「アロケーション・ファンド」という場合があります。）への投資の指図に関する権限の委託を受けた投資顧問会社（ブラックロック・ジャパン株式会社）に対する報酬（当ファンドの信託財産の純資産総額に対して年率0.75%（税抜））が含まれます。

（注6）②の費用には、直接の投資運用会社報酬などはありません。

（注7）①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

（注8）上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

最近5年間の基準価額等の推移



- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまが利用するコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、2014年9月16日の基準価額に合わせて指数化しています。

	2014年9月16日 決算日	2015年9月15日 決算日	2016年9月15日 決算日	2017年9月15日 決算日	2018年9月18日 決算日	2019年9月17日 決算日
基準価額 (分配落) (円)	10,164	9,575	9,754	10,193	9,777	9,727
期間分配金合計 (税引前) (円)	—	150	0	400	250	0
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	△4.4	1.9	8.6	△1.7	△0.5
純資産総額 (百万円)	1,870	1,704	2,671	3,496	3,262	2,673

- (注1) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示してあります。
- (注2) 純資産総額の単位未満は切り捨てて表示してあります。
- (注3) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注4) 投資証券への投資を通じて、世界各国の様々な資産への分散投資と為替取引で得られる収益の獲得による投資信託財産の成長を目指して運用を行うという、当ファンドのコンセプトに適した指数等がございません。よって、ベンチマーク等は設定していません。

投資環境

●米国株式市場

米国株式市場は、底堅い米国景気や事前の市場予想を上回る企業業績などから、堅調に推移しました。2019年5月から6月にかけて、米中貿易摩擦の高まりや中東での地政学リスクの顕在化などから一時的に下押し局面もありましたが、その後持ち直しS & P 500など主要な株式指数は史上最高値を更新しました。しかし、7月末開催のFOMC（米国連邦公開市場委員会）において0.25%の利下げが発表され、一旦材料出尽くしとなったことに加え、パウエルFRB（米国連邦準備制度理事会）議長が追加利下げを強く示唆しなかったことから上昇幅を縮めました。9月に入り、米中間の貿易協議について歩み寄りの姿勢が見られたことから、再び上昇しました。

こうした状況のもと、第24期末における米国株式市場は、第23期首と比べて上昇しました。

●欧州株式市場

欧州株式市場は、ブレグジット（英国の欧州連合離脱）や景気減速懸念といった不透明要因はあったものの、ECB（欧州中央銀行）の金融政策への楽観や底堅い米国景気などの影響を受け、上昇しました。2019年5月には米中関係が懸念材料となったことに加え、ブレグジットの行き詰まりにより英メイ首相が辞任を発表するなど、混迷状態の高まりから一時的に下落する局面もありました。6月以降、ユーロ圏経済指標上振れ、ドラギECB総裁による追加緩和策を講じる可能性についての発言などを好感し、再び上昇しました。8月には、ドイツの第2四半期のGDPが前期比マイナス成長を記録したことなどから景気後退への懸念が高まり下押し局面もありましたが、ECBの金融緩和期待、ドイツ政府による財政出動期待などから、戻り歩調となりました。

こうした状況のもと、第24期末における欧州株式市場は、第23期首と比べて上昇しました。

●国内株式市場

国内株式市場は、米国株高や為替の円安基調といったプラスの影響を受け期初は底堅く推移しました。2019年5月には米中関係悪化による世界経済や企業業績の減速懸念、消費税増税実施の不透明感などから下落しました。6月以降は金融緩和観測を背景に欧米株式市場が上昇したことなどから、底堅さを取り戻しました。8月には、為替が円高方向に振れたことから一時的に軟調となりましたが、米中間で通商協議再開への期待感が高まり、戻り歩調となりました。

こうした状況のもと、第24期末における国内株式市場は、第23期首と比べて上昇しました。

●米国債券市場

米国債券市場では、2019年3月に開催されたFOMCにおいて年内利上げを見送る方針などが示されると、長期金利に低下圧力がかかりました。加えて、5月以降、米国景気の鈍化懸念、米中貿易摩擦長期化への不安、FRBの利下げ観測などから、長期金利の低下がさらに加速しました。7月末に0.25%の利下げが発表された後、景気減速懸念の高まりなどから、長期金利の低下に拍車がかかりました。

こうした状況のもと、第23期首に2.6%台半ばでスタートした米国10年国債利回りは第24期末に1.8%台半ばとなりました。

● 欧州債券市場

欧州債券市場では、2019年3月にECBが政策金利を少なくとも年末まで現行水準で据え置くことや、新たな資金供給策を行うことを決定したため、長期金利は低下基調となりました。5月以降はユーロ圏経済指標の予想比下振れ、イタリア財政への懸念、ブレグジットを巡る先行き不透明感などから、さらに低下幅を広げました。9月にECBは実際に金融緩和策を発動し、マイナス金利の深掘を試みま

した。こうした状況のもと、ドイツ10年国債利回りは0.0%台から△0.4%台に、フランス10年国債利回りは0.4%台から△0.2%台に低下（価格は上昇）しました。

● 外国為替市場

米ドル円は、期初、米国の年内利上げ見通しがほぼなくなったことや、世界景気の減速懸念などから、米ドル安円高となりました。2019年5月以降も米中貿易の停滞の長期化懸念、利下げ期待の強まりなど米ドル安円高が継続しました。ユーロ円について、ゴールドデンウィーク前まではもみあいでの推移でしたが、その後、ECBによる追加金融緩和策の可能性、イタリアの財政を巡る懸念、ブレグジットを巡る先行き不透明感などからユーロ安円高となりました。第23期首1米ドル=111円後半でスタートした米ドル/円相場は、1米ドル=108円前半で、1ユーロ=126円半ばでスタートしたユーロ/円は1ユーロ=119円前半で第24期末を迎えました。

● 国内短期金融市場

国内短期金融市場では、日銀による異次元緩和政策が継続するなか、国庫短期証券3ヵ月物利回りは0%を下回るマイナスの水準での推移となりました。

■ ポートフォリオについて

● 当ファンド

当ファンドは、アロケーション・ファンドの組入比率を高位に維持し、第24期末の組入比率を98.0%としました。また、国内マネー・マザーファンドの組入比率を第24期末時点で0.2%としました。

● アロケーション・ファンド（2019年2月末～2019年8月末の運用経過）

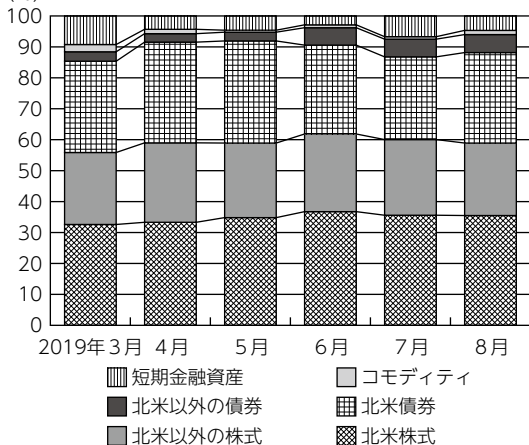
世界各国のさまざまな資産（株式、債券など）、国・地域、セクターなどから、投資魅力度が高いと判断される資産に分散投資を行いました。また、中長期的なトータルリターンを最大化を目指すため、投資環境に応じて株式や債券などの組入比率を機動的に変更しました。

2019年2月末と2019年8月末とのポートフォリオ比較では、米国、欧州、新興国株式への組入比率を高める一方で、日本およびアジア太平洋（日本除く）の組入比率を引き下げました。結果、株式全体の組入比率は2019年2月末の56.3%から2019年8月末は58.9%程度へ上昇しました。セクター別ではヘルスケア、コミュニケーション・サービスを積極的に組み入れる一方、生活必需品、金融、情報技術の組み入れは消極的としています。

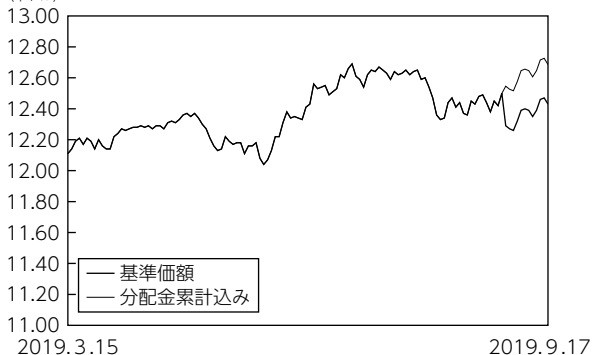
債券については、欧州地域内での資産分散効果を期待し中核国（ドイツ、フランス）の国債を組み入れたほか、魅力的な利回り水準を提供している北米地域の組み入れを維持しました。反対に投資魅力の薄い日本については低位の組み入れを継続しました。結果、債券全体の組入比率は2019年2月末32.5%から2019年8月末の35.1%へ上昇しました。

コモディティでは、資産分散効果を米国債で代替する方針のもと、金の組み入れを削減しました。商品関連ポジションは2019年2月末に2.6%から2019年8月末は1.4%に低下しました。

(%) アロケーション・ファンド資産配分の推移



(米ドル) アロケーション・ファンドの基準価額の推移



※アロケーション・ファンドは2019年8月末に分配金を支払っております。

●国内マネー・マザーファンド

主として円建ての公社債に投資することにより、安定した収益の確保を目指し、短期公社債を中心に投資を行いました。

ベンチマークとの差異について

投資信託証券への投資を通じて、世界各国のさまざまな資産への分散投資と為替取引で得られる収益の獲得による投資信託財産の成長を目指して運用を行うという、当ファンドのコンセプトに適した指数等がございません。よって、ベンチマーク等は設定していないため、グラフは掲載しておりません。

分配金

収益分配金につきましては基準価額水準等を勘案し、無分配とさせていただきます。なお、収益分配金に充てなかった利益は信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

■分配原資の内訳（1万口当たり）

項目	第23期	第24期
	2019年3月16日 ~2019年6月17日	2019年6月18日 ~2019年9月17日
当期分配金（税引前）	-円	-円
対基準価額比率	-%	-%
当期の収益	-円	-円
当期の収益以外	-円	-円
翌期繰越分配対象額	651円	797円

(注1) 「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金（税引前）」の額が一致しない場合があります。

(注2) 当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金（税引前）」の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

(注3) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益（含、評価益）」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備積立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

今後の運用方針

●当ファンド

引き続きアロケーション・ファンドの組入比率を高位に維持し、世界各国の株式や債券などさまざまな資産への分散投資で得られる収益の獲得を目指します。またヘッジ比率を高位に維持し、米ドル建て資産に対する為替変動リスクの軽減を図ります。

●アロケーション・ファンド

世界中のさまざまな資産（株式・債券など）、国・地域、セクターなどから、投資魅力度が高いと判断する資産を発掘します。多くの資産および銘柄（証券）に分散投資をすることで、株式投資より低いリスクで、競争力のあるリターンを獲得を目指します。投資環境に応じて株式や債券などの各資産への配分比率や個別銘柄（証券）への投資を機動的に変更することで、中長期的なトータルリターンの最大化を目指します。

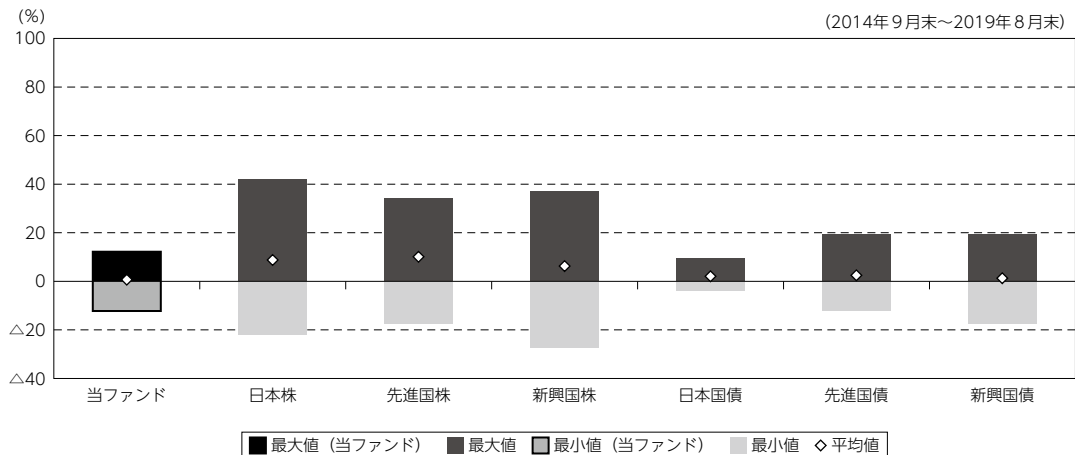
●国内マネー・マザーファンド

引き続き短期公社債を中心に投資を行い、安定した収益の確保を目指しますが、市場環境によっては、目標とする運用ができない場合があります。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合	
信託期間	2013年10月21日から2023年9月15日まで。	
運用方針	投資信託証券を主要投資対象として、投資信託財産の成長を目指して運用を行います。	
主要投資対象	グローバル・アロケーション・オープンDコース (年4回決算・限定為替ヘッジ)	投資信託証券。
	ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンド・クラスX米ドル建投資証券	世界中のさまざまな資産（株式・債券など）、国・地域、セクターなどから投資魅力度が高いと判断する資産。
	国内マネー・マザーファンド	本邦通貨建ての公社債。
運用方法	<p>以下の投資信託証券への投資を通じて、世界各国の様々な資産への分散投資と為替取引で得られる収益の獲得による投資信託財産の成長を目指して運用を行います。</p> <p>ルクセンブルグ籍外国投資法人 ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンド・クラスX（以下「アロケーション・ファンド」といいます。）米ドル建投資証券 内国証券投資信託（親投資信託） 国内マネー・マザーファンド受益証券</p> <p>各投資信託証券への投資割合は、資金動向や市況動向等を勘案して決定するものとし、アロケーション・ファンドの組入比率は、原則として高位とすることを基本とします。外貨建資産については、原則として当ファンドにおいて米ドル売り／円買いの為替取引を行います。アロケーション・ファンドへの投資に係る指図権限を、ブラックロック・ジャパン株式会社に委託します。</p>	
分配方針	<p>毎決算時に、原則として次の方針に基づき収益の分配を行います。分配対象額の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。分配金額は、基準価額水準や市況動向等を勘案して委託者が決定します。ただし、分配対象額が少額の場合などには、分配を行わないことがあります。留保益の運用については、特に制限を設けず、運用の基本方針に基づいた運用を行います。</p>	

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	12.2	41.9	34.1	37.2	9.3	19.3	19.3
最小値	△12.2	△22.0	△17.5	△27.4	△4.0	△12.3	△17.4
平均値	0.7	8.8	10.1	6.3	2.1	2.5	1.3

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2014年9月から2019年8月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドは、2014年10月以降の年間騰落率を用いています。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

*各資産クラスの指数

日本株……東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株…MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株…MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債…NOMURA-BPI国債

先進国債…FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債…JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

※各指数については後掲の<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>をご参照ください。

当ファンドのデータ

当ファンドの組入資産の内容（2019年9月17日現在）

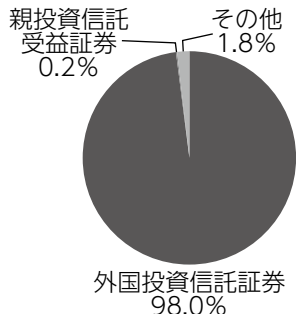
◆組入ファンド等

	第24期末
	2019年9月17日
ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンド・クラスX米ドル建投資証券	98.0%
国内マネー・マザーファンド	0.2
組入銘柄数	2銘柄

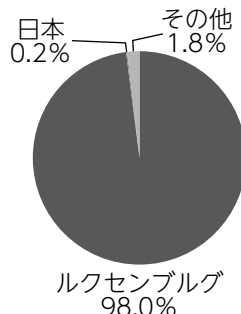
(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載してあります。

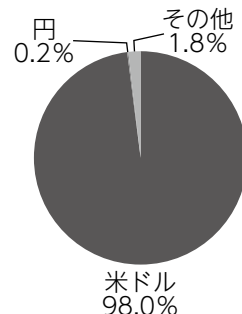
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示してあります。

(注3) その他は、純資産総額から有価証券等を差し引いた数字です。

(注4) 比率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示してあります。なお、合計は、四捨五入の関係で合わない場合があります。

(注5) 外貨建資産については、原則として当ファンドにおいて米ドル売り／円買いの為替取引を行います。

純資産等

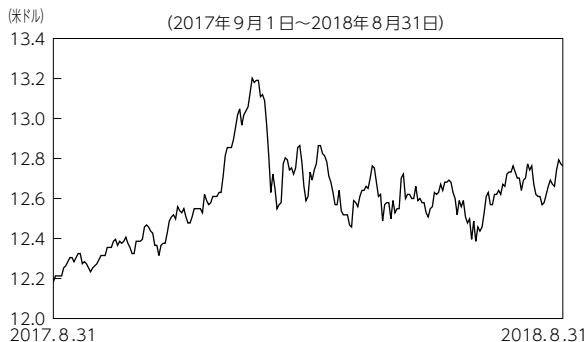
項目	第23期末	第24期末
	2019年6月17日	2019年9月17日
純資産総額	2,743,544,696円	2,673,684,443円
受益権総口数	2,865,040,991口	2,748,767,267口
1万口当たり基準価額	9,576円	9,727円

(注) 当作成期間（第23期～第24期）における追加設定元本額は32,543,704円、同解約元本額は401,627,583円です。

組入ファンドの概要

【ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンド・クラスX米ドル建投資証券】

◆基準価額の推移



◆1万口当たりの費用明細

(2017年9月1日～2018年8月31日)

当該期間の1万口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

◆組入上位10銘柄

(2018年8月31日現在)

	銘柄名	業種／種別等	国（地域）	通貨	比率
1	TREASURY NOTE (OLD) 2.75 07/31/2023	国債	アメリカ	米ドル	5.1%
2	TREASURY NOTE (2OLD) 2.625 06/30/2023	国債	アメリカ	米ドル	4.3
3	TREASURY NOTE (OLD) 2.875 07/31/2025	国債	アメリカ	米ドル	3.1
4	TREASURY NOTE 2.875 05/31/2025	国債	アメリカ	米ドル	2.0
5	TREASURY NOTE (2OLD) 2.5 06/30/2020	国債	アメリカ	米ドル	2.0
6	APPLE INC	情報技術	アメリカ	米ドル	1.9
7	TREASURY NOTE 2.75 04/30/2023	国債	アメリカ	米ドル	1.7
8	ALPHABET INC CLASS C	情報技術	アメリカ	米ドル	1.6
9	MICROSOFT CORP	情報技術	アメリカ	米ドル	1.6
10	TREASURY NOTE (OTR) 2.875 08/15/2028	国債	アメリカ	米ドル	1.3
組入銘柄数			740銘柄		

(注1) 比率は、ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンドの純資産総額に対する割合です。

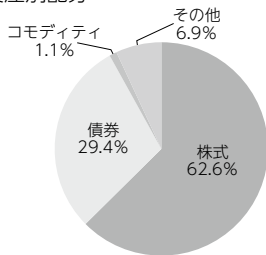
(注2) 「ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンド・クラスX」は、「ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンド」の個別クラスとなっております。

(注3) 組入有価証券に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載してあります。

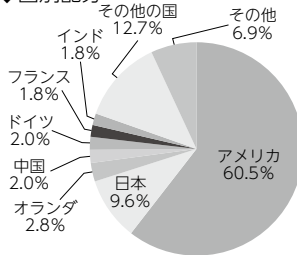
(注4) 国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示してあります。

(注5) 上記の表は、ブラックロックのデータをもとに記載してあります。

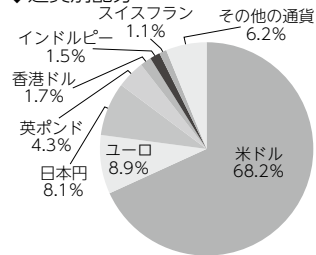
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 比率は、ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注2) 「ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンドークラスX」は、「ブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンド」の個別クラスとなっております。

(注3) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示してあります。

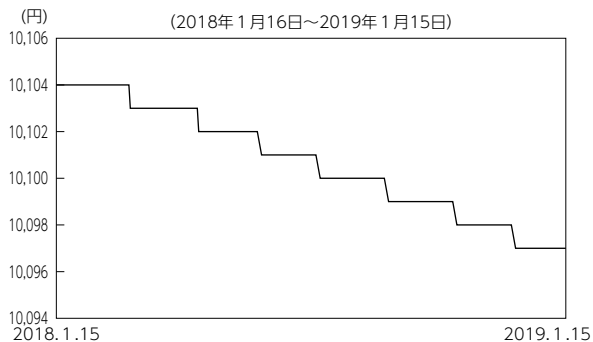
(注4) その他は、純資産総額から有価証券を差し引いた数字です。

(注5) 比率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示してあります。なお、合計は、四捨五入の関係で合わない場合があります。

(注6) 上記のグラフは、ブラックロックのデータをもとに記載してあります。

[国内マネー・マザーファンド]

◆基準価額の推移



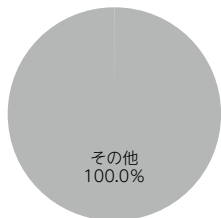
◆1万口当たりの費用明細

該当事項はございません。(2018年1月16日～2019年1月15日)

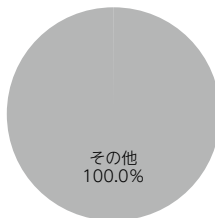
◆組入上位10銘柄

2019年1月15日現在、有価証券等の残高はございません。

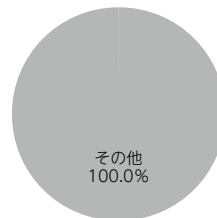
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) その他は、純資産総額から有価証券等を差し引いた数字です。

(注3) 比率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示してあります。なお、合計は、四捨五入の関係で合わない場合があります。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

- 「東証株価指数（TOPIX）」は、東京証券取引所第一部に上場されているすべての株式の時価総額を指数化したものです。同指数は、株式会社東京証券取引所（株東京証券取引所）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、(株)東京証券取引所が有しています。
- 「MSCIコクサイ・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、日本を除く世界の主要先進国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「MSCIエマージング・マーケット・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、新興国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「NOMURA-BPI国債」は、野村證券株式会社が国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表すために開発した投資収益指数です。同指数の知的財産権その他一切の権利は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
- 「FTSE世界国債インデックス（除く日本）」は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。
- 「JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド」は、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが公表している新興国の現地通貨建ての国債で構成されている時価総額加重平均指数です。同指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。また、同社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。